
ファイアーエムブレムオリジナル支援会話

ダフネ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ファイアーエムブレムオリジナル支援会話

【Nコード】

N1866B

【作者名】

ダフネ

【あらすじ】

キャラクター同士の親子愛・友情・恋愛等をメインに創作してつてます。

ノア&キャス・ランス&クレイン（前書き）

ドルカスとファリナ支援から生まれた作品。 ちなみにドイツ×ファリナでノア、ドルカス×ナタリーでキャス。 運命の再会（笑）

ノア&キヤス・ランス&クレイン

ノア&キヤスC

「キヤス」

ねえ、そこのお兄さん、傭兵でしょ？

「ノア」

ん？ああ、そうだけど。俺はノア。

もしかして、君も戦っているのか？危ないじゃないか

「キヤス」

へーきへーき、戦うのはあたしの仕事じゃないから。

あたしはキヤス。突然だけど、傭兵って儲かるの？

「ノア」

仕事をすればね

「キヤス」

ま、それは当然よね。でも、稼いだお金はどうしてるの？

ノアさんやノアさんの仲間って、そんなに使ってないみたいだし。

「ノア」

よく見てるね。ほとんどイリアへ仕送りするんだ。イリアは貧しいからね

「キヤス」

そうなんだ。うーん、やつぱ、

傭兵は皆お金持ちって訳じゃないんだね。なら、仕事はやめとくか

ノア&キヤスB

「キヤス」

ノアさんの、お父さんやお母さんもやっぱり傭兵なの？

「ノア」

母はイリアの天馬騎士で、父は、今ではイリアで生活しているけれど、

元々はリキアの船乗りだったんだ。君は？

「キヤス」

あたしは、サカ草原とベルンの間にある小さい村で生まれたの。

山賊とかたくさんいて、ちょっと怖い所。

でもあたしの村、もう、戦争の為に兵士に燃やされて無いけど

「ノア」

…君のご両親は？

「キヤス」

多分、二人とも元気だと思う。

あたし、色々あって家に帰ってないんだ。それからはずっと盗賊してるの。

人をだまして、人の物盗むのが仕事。さ、怒れば？

「ノア」

…苦労したんだね

「キヤス」

あ、あのち…ちょっとノアさんっ？もう、頭なでるなんて、子供じ

やないんだから

「ノア」

すまない、嫌だったかな？

「キヤス」

べつ別に嫌な訳じゃないけどね

ノア&キヤスA

「キヤス」

ノアさんのお母さんて…もしかしてファリナさん？

「ノア」

？そうだけど？

「キヤス」

本当！？すごいすごい！

「ノア」

キヤス？一体どうしたんだ？

「キヤス」

あのね、ノアさんのお母さんは、あたしのお母さんの恩人なの！

だってね、ノアさんのお母さんのお陰で、あたしのお母さんは足が良くなっただよ！

「ノア」

え？君のお母さんの名前は？

「キャス」

あたしのお母さん、ナタリーって言うの。
難しい足の病気でね、あと数年で歩けなくなる所だったの。
たまたまそれを知ったファリナさんがお金を援助してくれて、お陰
で治ったんだよ

「ノア」

じゃあ、君のお父さんがドルカスさんなのかな？

「キャス」

うん、そう

「ノア」

そうだったのか…母から奥さん思いのドルカスさんの話は聞いてい
た。

まさか、娘の君と会えるとは思わなかったけど

「キャス」

うん！あたしも！もしかして、これって運命かも

ランス&クレインC

「クレイン」

おや、君は・・・？

「ランス」

リグレ公爵家のクレイン様ですね。

私はフェレの騎士、ランスと申します。どうか宜しくお願いします。

「クレイン」

これは丁寧。こちらこそ、よろしく。

「ランス」

はっ。

「クレイン」

同じ軍で戦う者同士、力を合わせて戦っている。

「ランス」

はい！もちろんです！

「クレイン」

では、失礼するよ。

（クレイン消える）

「ランス」

あの方が・・・クレイン様が・・・。

ランス&クレインB

「ランス」

クレイン様、ご無事でよかった。

「クレイン」

確か君は・・・ランスだったね、ありがとう。

「ランス」

何か、不自由な事はありませんか？戦時ゆえの我が軍の非礼、どうかお許しください。

「クレイン」

そんな事は気にしないでいい、ロイ殿の人柄のせいか、エトルリア軍に比べ気持ちがなごむ。

「ランス」

そうですね、それならいいのですが・・・。

「クレイン」

君が色々と気遣ってくれるのは嬉しいが、今の私は、君と同じくこの部隊に身を置く者だ。

いつまでも特別扱いしなくていい。

「ランス」

そ、そんな。身分の高い方がおられれば、主人でなくともお守りするのが当然です。

「クレイン」

ふう、まあ、そうなのだけだね。変な事を言っすまなかった。

「ランス」

あなたの落ち度ではありません！

「クレイン」

おや、エルフィンさんが呼んでいる。…では、失礼するよ。

(クレイン消える)

「ランス」

・・・・・・。

ランス&クレインA

「クレイン」

ランス、少しいいかな？

「ランス」

クレイン様？何故このような所に？どうか、私のことなどお気になさらず。

「クレイン」

いや、君と話したかったんだよ。

「ランス」

そうでしたか・・・クレイン様はお優しい方ですね、私のような者にもこうして心を砕いて下さる。

きっと、お父上の優しい心をそのまま受け継がれたのでしょうかね。

「クレイン」

え？

「ランス」

我が母フィオーラは、かつてあなたのお父上である、リグレ公爵に雇われていた事があるのですよ

「クレイン」

！そうだったのか・・・。

「ランス」

あなたのお父上の話を何度も聞かされました。

母は、あなたのお父上にとっても感謝していました。

「クレイン」

ランス・・・。

「ランス」

クレイン様、あなたにお会い出来て、本当に光栄に思います。

エルク&セシリア・ナタリー&キャス（前書き）

烈火後日談より、セシリアの師匠はエルクであると見ています。エルプリ含め、創作。

エルク&セシリア・ナタリー&キャス

エルク&セシリアC

「セシリア」

初めまして、エルクお兄様。

「エルク」

君は・・・？

「セシリア」

カルレオン伯爵の娘、セシリアと申します。

「エルク」

では、妻の？

「セシリア」

はい、プリシラお姉様の妹です。

「エルク」

そうか、君が・・・どうか宜しく。

「セシリア」

ええ、こちらこそ。お兄様の事はパント様とご一緒の姿を何度か拝見した事があります。

こうしてお話出来て光栄ですわ

「エルク」

そうだったのか。君の事は、パント様や妻から話に聞いていたよ

「セシリア」

まあ、どんな事でしょう？

「エルク」

プリシラからは、明るくてとても可愛い妹がいるとね。

それにパント様は、君にはかなりの魔道の才能があつて、

将来が楽しみだと言っていた。とても嬉しそうに話しておられたよ

「セシリア」

ふふっ身に余る光栄ですわ。

エルク&セシリアB

「エルク」

セシリア、君は館でも勉強熱心だそうだね。

「セシリア」

そんな事ありませんわ。一人前になる為に必要な、当然の努力です

「エルク」

聞くところによると、食事や寝る間を惜しんで魔道書に取り組んでいるとか

「セシリア」

ほんの少し、そんな時がありますわ

「エルク」

…魔道を学ぶ事は、中々厳しいものだな。

誰にだってただ魔法の呪文を唱えれば使えるというものでは決して

ない

「セシリア」

？はい、そうです。

魔道は、努力だけではどうしようもない天の素質がいるのだと教えて頂きました

「エルク」

うん、そうだね。それに加えて、魔法を唱える為に、

普通は魔法の呪文を唱えなければいけないから、それを覚えなければいけない。

だから、覚えられるだけの頭がなければいけない。

自分にそれが両立出来る力が眠っていると思うと嬉しくて誇らしい

…そうだよ

「セシリア」

ええ、その通りですね。勉強すればするほど力になるのだと思うと、楽しくて。

お兄様もそうでしたの？

「エルク」

あはは、そうだよ。でもねセシリア、努力する事は大切だけど、食事と睡眠を取る事は忘れずにね。私など、それをおろそかにしたせいで倒れてしまった

「セシリア」

！そんな事があつたのですか？

「エルク」

ああ、お陰でパント様とルーズ様にとっても心配をかけてしまった。

だから君も、そうならないようにね。

「セシリア」

はい、分かりましたわ

ナタリー & キヤスC

「キヤス」

お母さん、お父さんって頼りない！

「ナタリー」

あらあら、子供は余計な心配しなくていいの

「キヤス」

何よ、母さんが心配だから言ったのに

「ナタリー」

ふふっ分かってるわよ。

ありがとうね、キヤス……。こっちへいらっしやい

「キヤス」

ねえお母さん、いい泥棒が悪いお金持ちをやっつけた話。聞かせてくれる？

「ナタリー」

ええ、いいわよ。昔々……

ナタリー & キャス B

「キャス」

お母さん、何描いてるの？

「ナタリー」

何に見える？

「キャス」

あっこれあたしだ！！

ねえお母さん、どうして絵を描くの？

「ナタリー」

いい思い出を、いつまでもとどめておきたいから、かしら

「キャス」

あたし、母さんの絵好きだよ。

見てるとあつたかい気持ちになるから。

「ナタリー」

ふふっありがとう

パント&クレイン・ロイド&ラガルト（前書き）

リグレ公爵パントと、その息子クレインの親子会話です。

パント&クレイン・ロイド&ラガルト

パント&クレインC

「クレイン」

父上！父上？

（パント現れる）

「パント」

クレイン、どうしたんだい？

「クレイン」

どうしたじゃありませんよ、お食事をとってますか？

「パント」

あっそう言えば、書物に夢中ですからかり忘れていた。

「クレイン」

父上や母上からアトス様の事を何度かお聞きしましたが、残念ながら父上は普通の人間です、早く母上の所へ行つてあげて下さい。

それから最低限の食事は取ると、私とも約束して下さい。

「パント」

分かったよ、分かった、約束するよ。

これでも随分直ったんだが……。あ、ルーズは広間かな？

「クレイン」

ええ、そうです。

「パント」

じゃあ、失礼するよ。

（パント消える）

「クレイン」

まったくあの人は・・・心配だな。

パント&クレインB

「クレイン」

以前、父上はイリアの天馬騎士を雇っていたと言っていましたね。

「パント」

ああ、そうだよ。それがどうかしたのかい？

「クレイン」

父上は、傭兵を雇う事についてどうお考えですか？

「パント」

どう言う事だい？

「クレイン」

傭兵とは、給料さえくれれば、一定の軍務について傭い主のためにつくす職業軍人のこと。

彼らは高い技量を持っていますが、逃げ出したり、ろくな訓練も受けていない者も多々います。

彼らはあくまでも「戦争の犬」とされる人間であるのでは。そう言

う人間を雇うのは…。

「パント」

傭兵は、雇い主への忠誠心や愛国心などは一切持たないからね。
お金次第で、ずっとお抱えにしておくと、何時寝首をかけられるかわからない。

「クレイン」

ええ、そうです。

「パント」

もちろんそれも一理だが、普通の傭兵とイリアの傭兵は違う。
イリアの傭兵は自国を豊にすることを第一としている。
その為に全員が決まりを決め遵守する。考え方が普通の傭兵とは違うんだよ。

「クレイン」

成る程。

「パント」

お前も、もし傭兵を雇うような事があつたら、彼らを頼るといい。

「クレイン」

はい、父上。

ロイド&ラガルトC

「ラガルト」

よう！ロイド

「ロイド」

・・・ラガルト。お前は、本当にいいのか？

「ラガルト」

「粛清」の話かい？なあ、ロイド。

黒い牙の連中は、ほとんどの奴がいい奴だな。それだけに、悪人になりきれねえ。

手を汚す憎まれ役が、どうしても必要になる時だってある。その必要性はわかってるだろ？

「ロイド」

ああ・・・

「ラガルト」

あのな、俺は楽しんでるぜ。あんたが気にする事なんぞ、何もない。

ロイド＆ラガルトB

「ロイド」

無事か

「ラガルト」

ああ。なんだ、えらくオレを心配してくれるんだな。ほれたかい？

「ロイド」

ラガルト。俺は、お前のそう言うところが・・・

「ラガルト」

気に入らない？

「ロイド」

・・・安心する

「ラガルト」

だろう？…ロイド、黒い牙は俺の居場所だ。

その居場所を壊そうとする連中をのさばらせたりしねえよ。

俺は、お前と…お前達と来た事を後悔しない。

お前が俺の事を考える時は、その事だけを頭に置いてりゃいいのさ。

マシュー&レイラ（前書き）

烈火の、魔の島でのマシューの台詞「この仕事が終わったら、足を洗わせようと思ってたんですけど」より

マシュー＆レイラ

マシュー＆レイラC

「マシュー」

レイラ！

「レイラ」

何？マシュー。

「マシュー」

無事だな？怪我とかないか？

「レイラ」

ええ、大丈夫よ、ありがとう。

「マシュー」

なあお前さ、前線に出すぎじゃねえか？

お前がおれたちの仲間内でも一番の使い手だって事は知ってるけどよ、

密偵なんか戦うもんじゃねえだろ。

「レイラ」

確かにそうだけれど、大丈夫、戦うべきか、戦うべきじゃないかわぐらいの判断は出来るわ。

「マシュー」

ならいいけど、戦いは他の誰かにまかせといて、俺達はきっちり裏方の任務だけこなしてりゃいいんだからな。

「レイラ」

はいはい、分かったわ。

「マシユー」

そういやお前、最近ヘクトル様と一緒に居る事が多いって聞いたけど、本当か？

「レイラ」

誤解しないでよ。ウーゼル様からヘクトル様の護衛を仰せつかっただけよ。

「マシユー」

そっか・・・うん、ならいいけど。

マシユー＆レイラB

「マシユー」

ようっレイラ。久し振りだな。

「レイラ」

！マシユー。おどかさないでよ。

「マシユー」

疲れているんだな。

「レイラ」

・・・そんな事ないわ。

「マシユー」

目の下に隈が出来てるぞ。

「レイラ」

ホント？ああ、いやだわ。

「マシュー」

いつオスティアに戻って来たんだ？お前、近頃各地を飛び回ってる
そうじゃねえか。

「レイラ」

ええ、今あたっている任務の関係でね。

オスティアに戻ってきたのはウーゼル様に報告する為だから、
また外へ出て行かないといけないわ。

「マシュー」

お前の事だから、寝る暇を惜しんで仕事してるんだろ。このままじ
や体を壊すぞ。

「レイラ」

でも、与えられた任務は遂行するしかないでしょう？

「マシュー」

俺が、何か力になれる事はないのか？

「レイラ」

ありがとう。でもごめんなさい、ちょっと邪魔しないでくれる？
今調べてる事で、奇妙な点があるの。大事な所だから。
じゃあねマシュー。あなたこそ気をつけて。

（レイラ消える

「マシユー」
レイラ・・・

マシユー＆レイラA

「レイラ」
マシユー？

（マシユー現れる）

「マシユー」
ようっレイラ。偶然だな。

「レイラ」
そうかしら？随分前から気配がしていたのだけど。

「マシユー」
うっ。

「レイラ」
まあ、いいわ。この前は、心配してくれてありがとう。そっちは調子どう？

「マシユー」
ああ、順調だぜ。

「レイラ」
？何か、様子が变だけど、言いたい事でもあるの？

「マシユー」

まあ、一応あるけどな。でも、お前に話したらびっくりすると思うから、今は言えねえな。

「レイラ」

どうして？言ってくれたら、私でも協力できるかもしれないじゃない。

「マシユー」

お前が協力してくれないと困るんだよ。

「レイラ」

え？

「マシユー」

ハハ、じゃっそーゆーこったから！またな。そのうち言っよ。

（マシユー消える）

「レイラ」

？変なマシユー。

シヤナン&ラクチェ・アイラ&フュリー（前書き）

シヤナラク会話でございます！今のところ、ラクチェの相手はシヤナンで固定です。

シャナン&ラクチエ・アイラ&フュリー

シャナン&ラクチエC（第七章）

「ラクチエ」

シャナン王子！！良かった…ご無事だったのですね！

「シャナン」

ラクチエが、色々と大変だったようだな。留守をしてすまなかった

「ラクチエ」

いえ、シャナン様さえご無事なら私は…

「シャナン」

少しは剣の腕をあげたか？

「ラクチエ」

まだ王子の足下にも及びません。

「シャナン」

ならば少し手ほどきをしてやろう。

お前は力が足りないようだ、もっと気合いをいれて振り下ろせ

「ラクチエ」

あ、はい！こうですか…

シャナン&ラクチエB

「シャナン」

ラクチエ、剣に一層磨きがかかったな。ますますアイラ叔母上に似てくる

「ラクチエ」

シャナン様は、アイラ母様の事ばかりですね。

アイラ母様は私の理想、喻えて頂けるのは嬉しいですが、少し寂しいです。

…時々怖くなります、シャナン様は私にアイラ母様の影を追っているのではないのかと

「シャナン」

何を言う、お前はお前だ。元気が無かったのはそのせいかな？スカサハが心配していた

「ラクチエ」

スカサハが？もうっシャナン様からも言っちゃって下さい、人の心配する暇があったら自分の心配をしろって

「シャナン」

やれやれ、考える事は同じと言う事が

シャナン×ラクチエA（最終章）

「ラクチエ」

シャナン様、ようやくここまで来ましたね

「シャナン」

うむ、長い道のりだったな

「ラクチエ」

イザークの人は今は頃どうしているでしょう、変わった事が無ければいいのだけど

「シャナン」

ラクチエは国が恋しくなつたか

「ラクチエ」

そんなことはありません！私はもう子供ではないのですよ！

「シャナン」

そうかな、私にはまだ子供に見えるが

「ラクチエ」

シャナン様！！

「シャナン」

ははは、そんな恐い顔をするな、美しい顔が台無しだぞ

「ラクチエ」

シ、シャナン様…

アイラ&フュリーC

「フュリー」

イザークのアイラ王女ですね、
私はシレジアの天馬騎士、フュリーと申します

「アイラ」

ほう、シレジアの…宜しく頼む

「フュリー」

はい！

「アイラ」

それにしても、天馬とは見事なものだな…美しい

「フュリー」

お褒め頂き、光栄です。

アイラ&フュリー B

「アイラ」

フュリー殿、度重なる心づくしに感謝する。そなたのお陰でどんなに心が和んだ事か…

それに、シャナンを天馬に乗せてくれたこと、シャナンの心からの笑みを久々に見た。礼を言う。

「フュリー」

アイラ様…心情お察しいたします。

グランベルとイザークは敵対しております、心苦しい事もありましよう

何か、お力になれる事があれば何なりと申しつけ下さいませ

「アイラ」

すまん。時に、フュリー殿は誰か、好いている男でもいるのか

「フュリー」

ア、アイラ様！？

「アイラ」

隠さなくていい。見るたびに貴女はお美しくなられている。
そなたに愛される男は幸せだな

「フュリー」

わ、私はそんな…アイラ様こそ…。

「アイラ」

ふっ

アイラ＆フュリーA

「フュリー」

アイラ様、私はシレジアへ戻ります。

アイラ様はイザークへ戻られるのでしょうか？どうか、ご無事で

「アイラ」

そうか…私はシグルド殿と共にここに残り、最後まで見届けるつもりだ

「フュリー」

！？シグルド様のご子息や、オイフェ殿を始め、
多くの者がイザークへ逃れております。シャナン王子もです！

「アイラ」

知っている。だが、私の役目はもう終わったのだ…

「フュリー」

そんな…

「アイラ」

フュリー、私は貴女と出会えた事を嬉しく思う…

貴女の事は忘れんぞ、息災でな。生きていればまた会えよう

「フュリー」

アイラ様…

シャナン&スカサハ・カリオン&エダ（前書き）

従兄弟にあたる二人の会話。エダカリも創作

シャナン＆スカサハ・カリオン＆エダ

シャナン＆スカサハC

「スカサハ」

シャナン王子！！ご無事だったのですね！

「シャナン」

スカサハか、色々と大変だったようだな。留守をしてすまなかった。

「スカサハ」

いえ、シャナン様さえご無事ならいいのです。

「シャナン」

少しは剣の腕をあげたか？

「スカサハ」

以前よりは一応・・・でもラクチェに抜かれそうです。

「シャナン」

ふっならば少し手ほどきをしてやろう。

お前には素早さが足りないようだ、だから足腰を中心に鍛える。まず俺の剣を避けてみる。

「スカサハ」

は、はい！

シャナン＆スカサハB

「シャナン」

スカサハ、気を抜くな。何を考えていた？

「スカサハ」

シ、シャナン様！おどかさないで下さいよ。えっと、その・・・ラクチエの事です。

「シャナン」

ラクチエがどうかしたのか？

「スカサハ」

ええ、時々母さんや父さんを想って泣いているのを知ってるんです。あいつ、皆の前では強がってるけど寂しがり屋だし・・・。

それに、帝国の奴等のせいでひどい心の傷を負って、極度の男嫌いでしょう？

「シャナン」

ああ・・・。

「スカサハ」

俺やセリス様やシャナン様の前では普通でも、中々他の人には・・・。

でも、あいつにはいい人を見つけて幸せになっただけなんです。

あ！これはラクチエには内緒ですよ、余計なお世話ってまた怒られますから。

「シャナン」

お前はよい兄だな。心配するな、お前達は私の恩人アイラ叔母上の子ども達。

いざとなれば、責任を持って私が面倒を見るさ。

シャナン＆スカサハA

「スカサハ」

シャナン様、もう少しですね。

「シャナン」

うむ、長い道のりだったな。

「スカサハ」

イザークはどうなっているでしょうね。

解放自体は早かったですから、きっと皆が上手くやっているでしょうけれど。

「シャナン」

スカサハは国が恋しくなったか。

「スカサハ」

いつだって恋しいですよ、シャナン様もそうでしょう？

でもじきに帰れるのですから、もう少しの辛抱だと思っています。

「シャナン」

そうだな。お前は国へ帰ったらまず何をしたい？

「スカサハ」

そうですね。とりあえず、父上の生まれたソファラへ行きたいです。

ティルナノグではずっと隠れていましたし、

いざ戦いが始まったらあつと言う間にイザークを離れてしまって、
ゆっくり見る暇も無かったですからね。

「シャナン」

ホリン殿か・・・懐かしい。スカサハ、死ぬんじゃないぞ。
本当に大変なのはこの戦いが終わってからだ。
お前には、俺の片腕となつて働いて貰わなければならないのだから。
な。

「スカサハ」

はい！シャナン様！

カリオン＆エダ

「カリオン」

トラキアの飛竜…

「エダ」

何か？

「カリオン」

失礼。私はレンスターの騎士カリオン

「エダ」

私はエダ。お気づきの通り、トラキアの竜騎士です

「カリオン」

・・・

「エダ」

カリオン殿はどうお考えですか？

トラキアの人間が、あなた方レンスターの人々に混じって戦うのを

「カリオン」

率直に言おう。何故この軍に？かつての味方と戦うのは不本意では？

「エダ」

…私は兄と共に、殿下の婚約者であるリノアン様をお守りするだけです。では

（エダ消える）

「カリオン」

あ、エダ殿…！

カリオン＆エダB

「カリオン」

エダ殿！無事でよかった

「エダ」

カリオン殿。何か御用でしょうか

「カリオン」

この前の非礼を詫びたい。エダ殿は、ハンニバル將軍をご存知か？

「エダ」

もちろんです。ハンニバル様は『トラキアの盾』と謳われるほどの
武人、

トラキアの民でハンニバル將軍を知らない者などおりません

「カリオン」

母と私は彼に救われたのです。私だけでなく友や師も。それからはトラキアで育ったのですよ。彼には深く感謝しております

「エダ」

ハンニバル將軍に…そうでしたか

「カリオン」

エダ殿…いや、エダ。私にはレンスターやトラキアなど関係ない。私は一人の人間として貴女を仲間だと思っている

「エダ」

カリオン殿…。申し訳ありません、私は貴方に気を遣わせてばかりいますね

「カリオン」

いいんだ、私が好きでしている事だから。ケイト、お前の主人はやはり優しい人だな

「エダ」

？この子の名前を？

「カリオン」

あ、いやその小耳に挟んだだけです。では

（カリオン消える）

「エダ」

……

カリオン&エダA

「エダ」

ふう。ケイト、大丈夫？いつもありがとう…

「カリオン」

エダ。そしてケイト、無事で何より

「エダ」

カリオン殿。何故、そんなに気遣ってくださるのですか…

「カリオン」

その前に「殿」をやめて貰えると

「エダ」

は、はい…カリオン。カリオンは何故…

「カリオン」

私は貴女を知っています。

ハンニバル將軍の元へ遊びに来る王子と王女の側に、貴女と貴女の兄上がいた

「エダ」

！

「カリオン」

遠まわしな言い方には疎いので許して欲しいのだが…ずっと貴女を想っていたんだ。

エダ、戦いが終わったら私と一緒に暮らして貰えないか？

〔エダ〕

でも…カリオン、私はアルテナ様のお側に…

〔カリオン〕

分かってる。君は王女のいるトラキアに帰るだろう？ 私は戦いが
終わったら

お世話になったハンニバル將軍の元へ帰るつもりだ。いつでも会え
るよ

〔エダ〕

カリオン…ありがとう、とても嬉しい…

セリス&ティニー・パティ&ラナ（前書き）

セリティニーは支援会話Bのみ私の作話。後はゲームから抜粋

セリス&ティニー・パティ&ラナ

セリス×ティニーC（第八章）

「セリス」

ティニー、君はイシュタル王女を知っているのか？

「ティニー」

はい、イシュタル様は私を妹のように可愛がって下さいました

「セリス」

彼女を迎えに来た少年は誰なのだろう

「ティニー」

多分・・・ユリウス皇子です

「セリス」

えっ、ユリウス皇子だって！？

「ティニー」

はい、お二人は愛し合っておられます。だから、イシュタル様を・・・

「セリス」

君はユリウス皇子を知っているの？

「ティニー」

バーハラの都で何度かお会いしました。何とえば良いのか・・・人を惹きつける不思議な力と、

・・・氷の様な冷たさを持った恐ろしい方です。まるで人間では無

い様な・・・

セリス&ティニー B

〔セリス〕

ティニー、辛くない？この軍にはもう慣れた？

〔ティニー〕

はい、兄とセリス様のお陰です。ありがとうございます

〔セリス〕

アーサーか…いつも彼といたい？やっと会えたんだから無理もないけどね

〔ティニー〕

その…私は兄といられるのが嬉しいので、そうなのだと思います

〔セリス〕

そうか、ちょっと妬けてしまうな

〔ティニー〕

え？だ、だってセリス様と兄は違いますっ私、私は…前から…その…

〔セリス〕

ティニー、その続きは今度聞かせてくれないか？

〔ティニー〕

は、はい

「セリス」

約束だ。楽しみにしているから

セリス&ティニーA（最終章）

「ティニー」

セリス様……。

「セリス」

ティニー！気をつけろ、君は前に出ては駄目だ！

「ティニー」

でも、私もお手伝いしたい、セリス様の力になりたいの！

「セリス」

だけど……ボクは君を失いたくない！

「ティニー」

私はセリス様のお側にいます。私はディアドラ様のような運命になりたくない。

セリス様お願いします、私をお側に置いて下さい！

「セリス」

ご免、そうだったね。ボク達は離れてはいけないんだ。ティニー、一緒に行こう、君の力を与えて欲しい。

「ティニー」

はい！セリス様……

パティ&ラナC

「パティ」

シスター、こんにちは！

「ラナ」

え？あら、あなたは？

「パティ」

あたしはパティ。ユングヴィの公女ブリギッドの娘よ。宜しくね！

「ラナ」

そう、貴女がブリギッド伯母様の娘なの

「パティ」

あつもしかして聞いてた？

「ラナ」

ええ、母とレヴィン様から。

私はブリギッド伯母様の妹、エーディンの娘、ラナよ。一緒に頑張りましょうね。

パティ&ラナB

「パティ」

ねえラナ。ひょっとしてあなたって、セリス様の事…好き？

「ラナ」

えっ私は…

「パティ」

あはは！ラナったら赤くなってるっかわいいー！

「ラナ」

パ、パティったら、からかわないで

「パティ」

ごめんごめん。でもラナって分かりやすいね

「ラナ」

パティに言われたく無いわ、あなただってシャナン様の事、好きで
しょう？

「パティ」

えっどうして分かったの！？

「ラナ」

あら、だって分かりやすいんだもの

「パティ」

まあいいわっお互い頑張ろうね！

パティ&ラナA

「ラナ」

パティ、どうしたの？ぼんやりしてると危ないわ

「パティ」

うん、ちょっとね…ラナなら分かってくれるでしょ？

「ラナ」

ええ、とてもよく分かるわ

「パティ」

あたしはこの戦いが終わったら、他には行くところないし、
ユングヴィに帰るけど、ラナはどうする？

「ラナ」

私もあなたと一緒に、ユングヴィへ帰るわ

「パティ」

えっ一緒に帰ってくれるの？

「ラナ」

もちろんよ。元気を出して、私達はずっと一緒よ

ラナ&ユリア・セイラム&ティナ

ラナ&ユリアC（第六章）

「ラナ」

こんにちは、ユリア。レヴィン様がいなくて寂しいでしょう？

「ユリア」

あなたはラナね。いいえ、私は大丈夫です、寂しくなんてありません

「ラナ」

セリス様がね、貴女の事をとて心配されていました。
何か困ったことがあったら私に言ってね

「ユリア」

ええ、ありがとう・・・

「ラナ」

それと、これをあなたに

「ユリア」

これは、リライブの杖ですか

「ラナ」

ええ、あなたなら使えるでしょう？

「ユリア」

私にくださるの？・・・有難う、ラナ。これで私も皆の役に立てます

「ラナ」

ユリア、私達、力を合わせて頑張りましょうね

ラナ&ユリアB

「ユリア」

ラナ

「ラナ」

あら、ユリア

「ユリア」

前に貴女から教えてもらった事ですが…

セリス様は私の事を貴女にお話ししていたそうですね

「ラナ」

ええ

「ユリア」

セリス様は、私の事を他に何かおっしゃっていたのでしょうか…？

「ラナ」

他に？いいえ、聞いてないけれど

「ユリア」

そうですね…

「ラナ」

ユリア？それがどうかしたの？

「ユリア」

あ…何でもありません

「ラナ」

そう…。あ、私、そろそろ行かないと。ユリア、ごめんなさいね

「ユリア」

ラナ…？

ラナ&ユリアA

「ユリア」

ラナ…

「ラナ」

ユリア？どうしたの？

「ユリア」

ラナ…ごめんなさい…貴女の気持ちを知らなくて…

「ラナ」

まさかそれだけのために私の傍まで…？

貴女が気に病むことはありません。だって貴女は…

「ユリア」

え？

「ラナ」

セリス様が貴女をどれだけ必要としているか、よく分かりますから

「ユリア」

ラナ、セリス様はあなたの事を…

「ラナ」

いいのです、これは私の気持ちの問題ですから…ありがとう、ユリア

セイラム&ティナC

「ティナ」

セイラムさ〜ん！

「セイラム」

ティナ！？何をしているんだ

「ティナ」

え？セイラムさんたら〜私も戦ってるんですよ

「セイラム」

…君が？

「ティナ」

ほら、あたしってシーフやアンロックの杖が使えますから

「セイラム」

そうか…でも気をつけてくれよ。ん？どうした、嬉しそうだな

「ティナ」

だってサフィお姉ちゃんに会えたし、セイラムさんも一緒ですし。
何よりリーフ様のお役に立てるのが嬉しくて

「セイラム」

リーフ王子？

「ティナ」

あたし、王子様のような人が理想なんです。セイラムさんはどう思います？

「セイラム」

ティナ…話はまた後にしよう。危険だから下がちなさい

「ティナ」

はーい、セイラムさん！

セイラム＆ティナB

「ティナ」

はあ…

「セイラム」

ティナ？元気ないな、どうかしたのか？

「ティナ」

あつセイラムさーん…あーん…

「セイラム」

泣いていては分からない、何があった？どこか怪我でもしたのか？

「ティナ」

リーフ様が…リーフ様が…

「セイラム」

リーフ王子に何かあったのか？

「ティナ」

王子様、他に好きな人がいるみたいなんです

「セイラム」

…そうか

「ティナ」

あゝん…あゝん…

「セイラム」

………

「ティナ」

！セイラムさん…

「セイラム」

すまない、どうしたらいいか分からなくて…頭を撫でられるのは嫌いか？

「ティナ」

ううん、嬉しいです…ありがとうございますセイラムさん

「セイラム」

…子どもと言えど、女性と言う事が…

セイラム＆ティナA

「ティナ」

あつセイラムさん！この前はごめんなさい、でも、お陰でスッキリしました

「セイラム」

男女の事はよく分からないが、何かあればまた私に話せばいい

「ティナ」

セイラムさんは優しいですね、何だかお姉ちゃんみたい

「セイラム」

姉さん？…ティナ、私は男なのだが

「ティナ」

あ、ごめんなさい。そう言う意味じゃないんです

「セイラム」

はは、分かってるよ

「ティナ」

あ！それで…これ、この前のお礼にお弁当作ってきました

「セイラム」

ありがとう

「ティナ」

ところでセイラムさんって、確かまだ20代でしたよね？うん、悪くないかも

「セイラム」

ティナ？

「ティナ」

またお夜食作りますね！

ヨハルヴァ&ユリア・グラーニエ&ラケシス

ヨハルヴァ&ユリアC

「ヨハルヴァ」

あんた、ユリア…だったか？

「ユリア」

は、はい…ヨハルヴァ様

「ヨハルヴァ」

様なんていらねえよ。それより気をつけな、ボケーンとしてたらやられちまうぞ

「ユリア」

大丈夫…だと思います…

「ヨハルヴァ」

あんたみたいな大人しそうな女の子が戦うなんてなあ

「ユリア」

わ、私一人…安全な場所にいるなんて…出来ませんから…

「ヨハルヴァ」

おっ言うねえ！見直したぜ

「ユリア」

そう…ですか…ありがとうございます

ヨハルヴァ & ユリア B

「ヨハルヴァ」

ユリア？どうした？

「ユリア」

あ、ヨハルヴァ…さん、怪我をされたと聞いたので…

「ヨハルヴァ」

ん？ああ、あんたすげーよな、杖使えるんだもんな

「ユリア」

そ、そんなこと…無い…です…

「ヨハルヴァ」

しっかし怪我するなんて俺もざまあねえ、

あんたの事偉そうに注意したつてのによ、すまねえな

「ユリア」

ヨハルヴァさんは…前に出て戦うことが多いですから…

傷つかない方が…おかしい…です…

「ヨハルヴァ」

そっか、そうだよな！まったくあんたいい事言っぜ。

ありがとなユリア、よーっし！もういつちょやってくるか！

（ヨハルヴァ消える）

「ユリア」

あ、あの…傷はまだ…

ヨハルヴァ&ユリアA

「ユリア」

…っ…

「ヨハルヴァ」

お、おおおいユリア！？どうした、何泣いてるんだよ！

「ユリア」

ヨハルヴァさん…その、くしゃみ…してしまいました

「ヨハルヴァ」

何だ、びっくりさせんなよ

「ユリア」

す、すみません…でも、ヨハルヴァさんは優しい方ですね…

「ヨハルヴァ」

けっ、今頃気づいたのか？

「ユリア」

くすっ、いえ…ずっと前からです

「ヨハルヴァ」

なあユリア、相談していいか？俺、ドズル公国を立て直さなきゃなんねーんだけど、

一人じゃ無理だ。お前、俺と来る気ねーか？

「ユリア」

ええ、ヨハルヴァさんにはお世話になりましたし…喜んで…

「ヨハルヴァ」

うおお、ありがたいぜ、好きだあ、ユリア!!

グラニーニエ&ラケシスC

「ラケシス」

あの…レンスターのグラニーニエ様ですか？

私はエルトシャンの妹、ラケシスと申します。宜しく願いします

「グラニーニエ」

まあ、貴女がラケシス様ですか。

お話はよく伺っておりましたわ。こちらこそ、宜しく願いします

「ラケシス」

はい！

「グラニーニエ」

新しく姉妹となったのですもの、仲良くして頂けると嬉しいゆづぎです
います

「ラケシス」

は、はい…

「グラニーニエ」

ラケシス様？

「ラケシス」

あ、あの…グラニーニエ様…

「グラニーニエ」

グラニーニエ、とお呼び下さい

「ラケシス」

で、では私の事もラケシスとお呼び下さい。あの、グラニーニエ義姉様にお願いが…

「グラニーニエ」

はい？何でしょう？

「ラケシス」

エルト兄様をどうか…どうか…宜しくお願いします！！

グラニーニエ&ラケシスB

「ラケシス」

お義姉様、どうしたらエルト兄様のような方と結ばれる事が出来るのでしょうか？

「グラニーニエ」

え？

「ラケシス」

私はエルト兄様のような人でなければ好きにはなれないのです、

だから、誰の妻にもならないと思ってきました

「グラニーエ」

…ラケシス、王と私は政略結婚でしたよ

「ラケシス」

そんな！でも…でも…お二人は愛し合っておられます

「グラニーエ」

そうですね。ですが、私と王のような場合は稀です

「ラケシス」

はい…

「グラニーエ」

私は王を愛しております。貴女も。そして、お腹の中にいるこの子も。

生まれたら、可愛がってあげてくださいな

「ラケシス」

はい！お義姉様…

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1866b/>

ファイアーエムブレムオリジナル支援会話

2010年10月9日18時49分発行